

# 今月の野菜



産地紹介：長崎県 JA島原雲仙  
～清涼感あふれる風味 “しょうが”～

島原雲仙農業協同組合 島原地区営農センター  
センター長 佐藤 明成

## 1 地域の概要

島原市は長崎県の南東部島原半島の東端に位置し、雲仙普賢岳のふもと、有明海に面した温暖な気候で水と緑に恵まれた地域である（図1）。

島原市内の耕地面積は1830ヘクタールで総土地面積（8297ヘクタール）に対する耕地率は22.1%であり、全国の11.8%、長崎県全体の11.2%に比べ高い比率と

なっている。

総農家数1438戸のうち販売農家数は999戸となっており、販売農家率69.5%も全国の61.7%、長崎県全体の63.0%を上回る比率となっている（図2）。

島原市の平成30年度の農業産出額（推計）は160億5000万円で、中でも野菜は79億1000万円で農業産出額の49.2%を占める（図3）。

図1 長崎県島原市 位置図

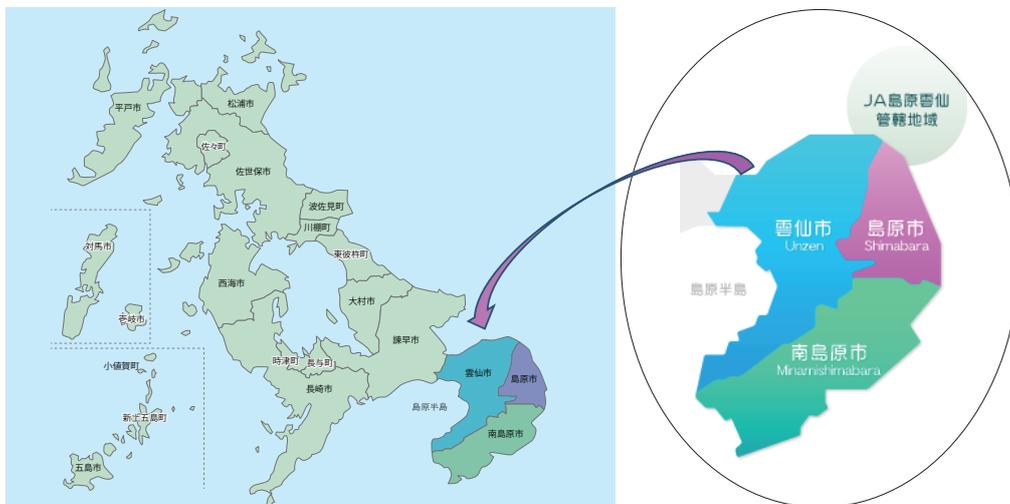
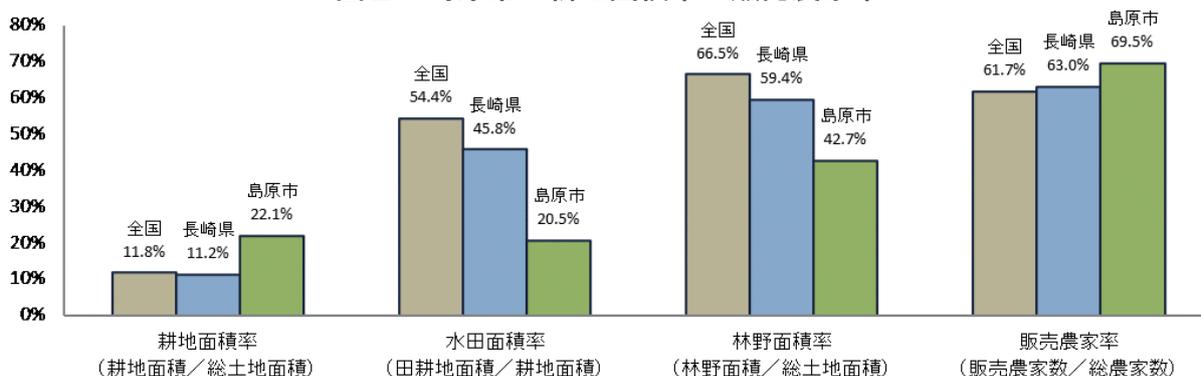
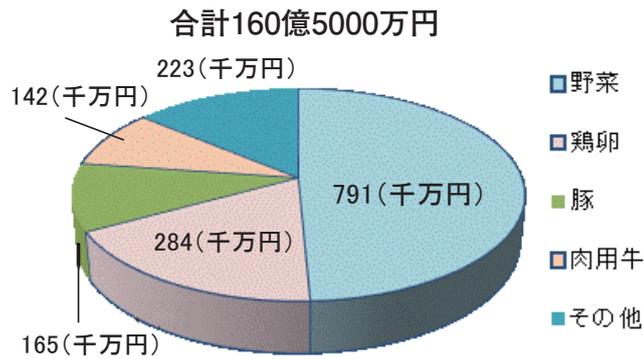


図2 島原市の耕地面積率・販売農家率



資料：農林水産省・統計情報・わがマチ・わがムラ（市町村データ）

図3 平成30年度 島原市農業産出額（推計）



資料：農林水産省・統計情報・わがマチ・わがムラ（市町村データ）

## 2 島原雲仙農業協同組合島原地区営農センターの取り組み

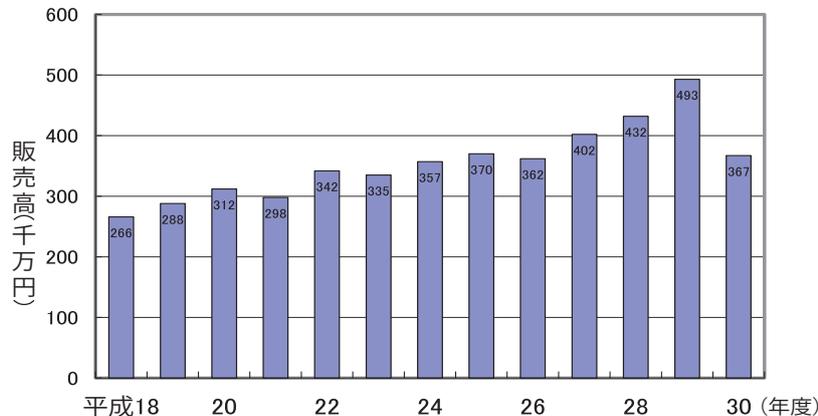
島原雲仙農業協同組合（以下「JA島原雲仙」という）島原地区営農センターでは旧島原市（平成18年：有明町と合併し現在の島原市となる）で生産される農産物を管轄し、生産部会6部会（だいこん、にんじん、はくさい、レタス、果菜、しょうが）と2研究会（軟弱野菜、いちご）の計225

部会員で構成されており、年間を通じて主に施設・露地野菜を中心に年間約30種類の野菜の生産・販売を行っている。

特に、だいこん、にんじんについては、大型共同選果場を完備し、秋冬作～春作まで長期安定出荷を行っている。

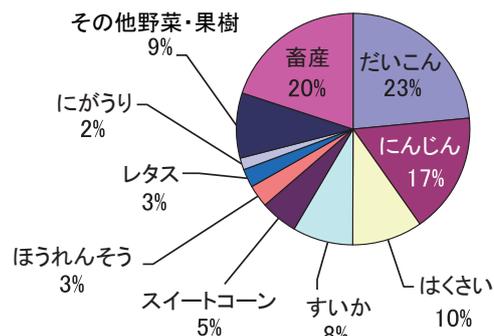
JA島原雲仙島原地区営農センターでの販売高（図4）、品目別割合（図5）は以下の通りとなっている。

図4 JA島原雲仙 島原地区営農センター 販売高推移



資料：JA島原雲仙

図5 JA島原雲仙 島原地区営農センターの販売高内訳（平成30年度）



資料：JA島原雲仙



うが栽培が可能となったこと、また、完全ではないが、土壌消毒技術も代替え薬剤での処理方法が確立され、国産しょうがの需要の高まりから価格も比較的安定してきたため、現在、栽培面積は回復基調にある。

品種は長崎大生姜を使用しており、作

型は、ハウス無加温の場合3月～4月に定植し、8月～9月に収穫する。露地の場合は、4月～5月に定植を行い、10月下旬～11月まで収穫作業がある。規格は、表1の通りである。



写真1 三会原基盤整備地区



写真2 基盤整備地区のしょうが圃場

表1 しょうがの出荷規格

| 土地販売   | 市場販売 | 選別基準                                       |
|--|------|--|
| L  | 2L   | 1塊50g以上5ヶ以上の1株250g以上                       |
| M  | L    | 1塊30g以上3ヶ以上の1株100g以上                       |
| S  | M    | 1塊30g以上で1株100g未満～60g以上<br>(最低1塊20g以上の3ヶ以上) |
| <p>調整方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、土をよくおとす。</li> <li>2、ひげ根をよく取る。</li> <li>3、茎は、1cm未満に調整する。</li> </ol> <p>(注) 選別基準で例として、1塊50g以上、4ヶ250g以上であってもMへ規格を下げる。ただし、DB当り2株までは重量の調整手段として認める。</p> <p>・ワレは外す。青首＝玉まで青くなっているものは入れない。</p> |      |  |

#### 4 出荷の工夫

担当JA職員が生産者より提出された管理台帳を基に、圃場検見を実施し、収穫計

画を立て、JA収穫作業員の派遣手配により生産者と共に収穫（写真3）を行う。



写真3 収穫の様子（JA島原雲仙収穫作業員）

#### 5 販売戦略

8月～9月に収穫されるハウス新しょうがについては、JA選果作業員が洗浄・

選別・箱詰（写真4）を行い、新しょうがとして主に中国・九州市場へ出荷される。



写真4 選果・選別・箱詰の様子（JA島原雲仙選果作業員）

露地新しょうがについては、土付のまま取扱業者へ販売し、貯蔵され囲いしょうがとして用途に応じて販売される。

囲いしょうがとは、収穫した新しょうがを一定時期貯蔵した後、出荷するしょうがの名称であり、島原地区営農センターとしても長崎県島原産しょうがの長期出荷による知名度アップのため、農家貯蔵のしょう

がを選果・選別・箱詰し出荷を行っている（1月～3月）。

また、漬物業者との契約により、一部漬物用の受注栽培を行っている。生鮮と同じ品種を用いて、漬物に合うように通常の栽培より土寄せ回数を増やし深植え栽培を行い、根茎部を長くタケノコのように仕上げ、若いうちに収穫している（写真5）。

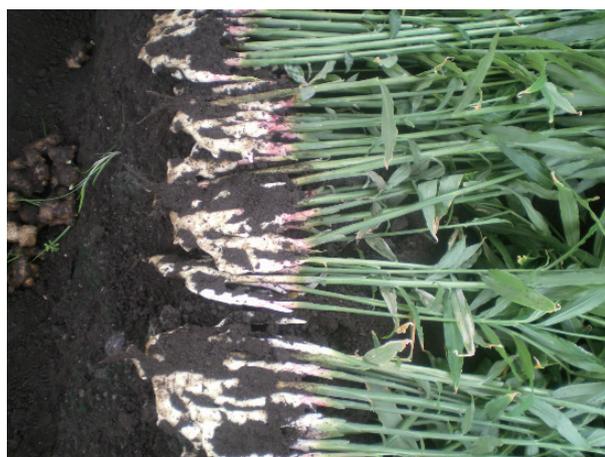


写真5 漬物用タケノコしょうが

#### ◆一言アピール◆

長崎県島原市の“しょうが”は、豊かな水と自然の中で栽培されています。清涼感あふれる風味は、嗅覚を刺激し食欲増進効果があり、また、新陳代謝が促進され体を温める効果があります。生薬として多くの漢方薬に用いられており、効能としては、胃粘膜保護、胃液の分泌促進による健胃、発汗作用促進、風邪、吐き気止めなどが挙げられます。

辛味成分（ジンゲロールやショウガオール）は生のしょうがに多く含まれ、強い殺菌作用により口直しや、食欲増進効果に加えて食中毒防止が期待できます。また、抗炎症作用、消化促進作用などによって疲労回復や病気に対する治癒力を手助けする働きがあるとされています。

健康パワーを秘めた長崎県島原産“しょうが”をぜひご賞味ください。

#### ◆お問い合わせ先◆

担当部署：島原雲仙農業協同組合 島原地区営農センター  
住 所：〒855-0012 長崎県島原市大手原町甲2130  
T E L：0957-64-3121  
F A X：0957-64-3146  
ホームページ：https://www.ja-shimabaraunzen.or.jp

